

平成 31 年 3 月の解説（府県天気予報）

【3 月の天候状況】

月平均気温は、東日本と西日本でかなり高く、北日本と沖縄・奄美では高くなりました。月降水量は、北日本と東日本太平洋側で少なくなりましたが、東日本日本海側と西日本では平年並となりました。一方で、沖縄・奄美では多くなりました。月間日照時間は、北日本太平洋側、東日本日本海側、西日本と沖縄・奄美で多くなりました。また、北日本日本海側と東日本太平洋側では平年並となりました。

上旬は、北日本では寒気の南下が弱く、低気圧はサハリン付近を通りやすかったため、南から暖かい空気が入りやすくなりました。このため、特に北日本では、気温はかなり高く、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多くなりました。

中旬は、北日本では、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだ影響で、気温はかなり高くなりました。東日本、西日本と沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もありましたが、高気圧に覆われて晴れる日が多くありました。また、大陸の高気圧から流れ込む冷涼な空気の影響で、気温が平年を下回る時期がありました。

下旬は、北日本では、低気圧や寒気の影響で日本海側を中心に曇りや雨または雪の日が多く、気温が低くなりました。東日本以西では高気圧と低気圧が交互に通過しましたが、東日本日本海側では、寒気の影響を受けて曇りや雨の日が多くなりました。東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、天気は概ね数日の周期で変わりましたが、21 日に低気圧が日本海を発達しながら北東進したほかは、低気圧の発達は弱く、降水量は少なくなりました。また、東日本以西では、日本海の低気圧に向かって暖かい空気が流れ込む日があり、平均気温は高くなりました。

【3 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)よりも 2 ポイント高い 86%で、明後日予報は例年値よりも 3 ポイント高い 83%でした。地方別の適中率では、明日予報は東海地方以外の各地方で例年値を上回る、もしくは例年値と同じとなりました。明後日予報は四国地方、九州北部地方と沖縄地方以外の各地方で例年値を上回り、特に関東甲信地方と北陸地方では例年値よりも 6 ポイント高くなりました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.4℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.3℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5 月の天気予報の利用にあたって】

5 月は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して大荒れの天気となることもあります。また、上空に寒気が流れ込むと大気の状態が不安定となり、穏やかな晴れの天気から一転して雷や突風・竜巻、局地的な大雨、降ひょうとなることがあります。屋外での活動を計画している場合は、天気予報とともに最新の気象情報や注意報、警報の発表状況にも留意し、天気の急変などに備えてください。